

		飯野校区 (第1回：10/10 第2回：)	福田校区 (第1回：10/24 第2回：)	津森校区 (第1回：9/27 第2回：)
座談会前の事務局イメージ	校区のキーワード（特徴を表す言葉）	「遊ぶ」「育てる」	「つくる」	「学ぶ（自然科学）」
	校区拠点公園の機能・規模	・学校内公園（東屋）	—	—
	校区拠点公園の候補地	・飯野小学校付近（仮設団地跡地） ・赤井地区（そうめん滝など） ・東無田地区（復興まちづくりの動き）	・福田分館近辺 ・第五保育所	・津森小学校近辺（四賢婦人記念館移設後の跡地利用） ・潮井公園
	校区拠点公園で行われる活動	—	・市民農園、DIY広場、災害時調理体験 ⇒災害時に「自ら作る」力を培う	・断層の見学 ⇒自然の恵みと脅威を学ぶ
	震災遺構の活用	—	—	・堂園地表面断層、潮井公園地表面断層

座談会で出た主な意見	震災記念公園全体のあり方	・公園のイメージが膨らみすぎないように。 ・「震災を忘れないような名前」が大事。 ・集落の中で、「何かあったらそこに集まる」という場所であったほうがいい。	・大変な場所があった、というのをしっかりと残して伝える必要がある。 ・復興に向かっていく場所であっても良い。 ・交流人口の増加に結び付けられれば…と思う。	・大きくなくてもいい。 ・「津森は複数の箇所をリンクできる」（飯野校区座談会での意見）	
	自校区の特徴	・高速道路のICに近く交通利便性が高い人が集まりやすい立地。 ・自助、共助。	・福田は何もない…と思っていたが、将来に向かっていけたらいいな、と思っている。 ・まちづくり協議会で一所懸命議論している。	・何かあればみんなが同じ方向を向く。 ・生まれた時からお互いを知っている。	
	自校区の資源	ハード資源	・地層や地形の成り立ちがわかる資源（以前の地震で表出した断層、水の噴出地、特徴的な地質など） ・飯野小学校（仮設住宅）	・平成28年熊本地震で露出した地表面断層（谷川の地表面断層、平田中公民館） ・第五保育所跡地（谷川方面への玄関口） ・皆乗寺 ・猿田彦の石碑（損壊）	・平成28年熊本地震で露出した地表面断層（潮井公園、堂園） ・津森仮設住宅 ・四賢婦人記念館（現在地、新記念館） ・辻ヶ峰公園
		ソフト資源	・スタディツアー ・季節ごとの資源（春：桜 夏：蛍 秋：祭り） ・水（ソーメン滝、水路等） ・人	・質の高い、多様な種類の農産物（ぶどう、梨、柿、スイカ、栗、米…等） ・農業（農地） ・水、土、山 ・歴史（益城で最初に文献に登場、修験道）	・歴史ウォーク（震災前から実施） ・消防団の活動 ・避難所生活での協力（区長からの貼紙、ボランティアピブス） ・「感謝」の気持ち ・辻ヶ峰公園で「いのちの教育」継続実施
	自校区の震災記念公園を表現する意見	・「スタディツアーの拡大」 ・「季節ごとの資源を活かしたフットパス」	・「『谷川の断層＋農産物の販売＋レストラン』というような感じで将来に向かって行けたらいい」 ・「足がかりになるような場所が必要」 ・「他所から来た人に向けた場所」	・「勉強を続けられる場」 ・「辻ヶ峰～堂園～杉堂というルート」	
事務局所感	・「集落外の人を意識した公園」をイメージした意見が多い。 ・成り立ちや根拠に基づいたストーリーを大事にする意見が多い。	・「何もない」という意見もある一方で、「何とか盛り上げたい」という意見も強い。 ・「断層を見に訪れる人」を契機に、地域を盛り上げたい、という意見が多い。	・「集落内の人を意識した公園」をイメージした意見が多い。 ・自然体を大事にする意見が多い。		

座談会後の事務局イメージ	校区のキーワード（特徴を表す言葉）	「教育」「育てる」（プログラムに沿って秩序立てて「教える」というイメージ。津森の「自然と学ぶ」との対比）	「つくる」「つなぐ」（地域を「つくる」、復興に「つなぐ」。校区内拠点を「つなぐ」。農作物を「つくる」、「つなぐ（販売）」。）	「学習」「学ぶ」「感じる」（訪れた人が能動的/主体的に学び、感じる）
	校区拠点公園の機能・規模	・複数の場所（小規模）をネットワークする（ひとつ拠点施設があるというイメージではない）	・特に谷川断層を訪問する人に向けた機能 - 駐車場／駐輪場 - コミュニティカフェ＋物産スペース（地域の人が普段集う場所としても活用）	・仮設住宅を活用した「学びbaco.」 - コンテナ仮設を改造して活用。 - 津森小の子供たちで管理する。
	校区拠点公園の候補地	案①：拠点地なし（複数のフットパスコースのみ） 案②：事務局的な「箱」を設置（場所は未定） 案③：国道沿い×皆知っている場所	・第五保育所跡地（谷川断層、皆乗寺へは徒歩でアクセス可）	・四賢婦人記念館移設後の跡地（津森小学校、津森分館の隣）
	校区拠点公園で行われる活動	・フットパス（ねらいを持ったウォーキング） - 「ガイド」による説明 ⇒「地震によって何が起きたか」を伝える（大地の記憶、くらしの記憶）	・他の拠点へ「つなぐ」活動 - 震災フットパス（震災遺構をめぐる） - 復興フットパス（復興前後を比較） ・公園を「つくる」活動 - 更地から公園を地域自らの手で整備する（芝生敷き、四阿作り等） ・農作物を「つくる」活動 - 貸し農園、みんなの農園（地域農園） ・農作物を「つなぐ」活動 - 寺マルシェ（皆乗寺での農作物市）	・語り部の方からの話を聞く、ワークショップ - 「どういった気持ちで何をしたか？」を聞く。 ⇒「非常時に自分がやれること」「非常時こそ感謝の気持ち」を学ぶ（活動の記憶） ・今回露出した地表面断層ウォーク ⇒自然の恵みと脅威を学ぶ（大地の記憶） ⇒辻ヶ峰公園もセットに「いのちの教育」の継続実施（いのちの記憶）
	震災遺構の活用	—	・谷川の断層（地表面断層） ・平田中公民館内の断層（地表面断層） ・猿田彦の石碑（損壊）	・潮井公園（地表面断層） ・堂園（地表面断層） ・辻ヶ峰公園 ・津森仮設住宅